



# 小学部 国語科 一題材の実践と振り返り

題材名：『よみよみ名人』で、単語（ひらがな）カードや文を読み、それらが表すイラストカードを選んで名人カードを完成させよう

授業者：青柳 俊

## 実践事例

## 題材目標

### 【学習指導要領の段階と内容】

小学部 2段階 C 読むこと

**知・技** :ア(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。

**思・判・表**:ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。

**学び** :言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

### 知・技

『よみよみ名人』で、文を読んでイラストを作る時、主語と述語の関係がわかり、単文を読み、主語を表すイラストと述語を表すイラストを正しく組み合わせる

### 思・判・表

2つの文を読み、それぞれの内容に合うイラストを組み合わせる時、主語と述語の言葉の意味を考え、主語と述語の関係を判断し、それぞれの文の主語を表すイラストと述語を表すイラストを組み合わせる

### 学び

主語と述語のイラストを組み合わせる課題に繰り返し取り組む

## 授業づくりの手順

前題材までの到達状況から知識及び技能を列挙する

列挙した知識及び技能を段階化する

段階化した知識及び技能から指導内容の範囲を決定する

各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために内容を細分化する

細分化・段階化した知識及び技能の一覧を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

## 考察

### 【成果】

文を読んで、その内容に合うようにイラストを選び、組み合わせることができるようになった。このことからワークシートを用いることや関係を視覚的に示したことが有効であったと考えられる。今後も、このような教具や指導方法を用いることで、文の内容の理解を深めていきたい。

### 【今後の改善】

#### ○具体的な生活シーンを取り入れた教材

日常的に経験する生活活動や場面を例に取り入れ、主語と述語の関係を身近に感じられるような教材を活用する。

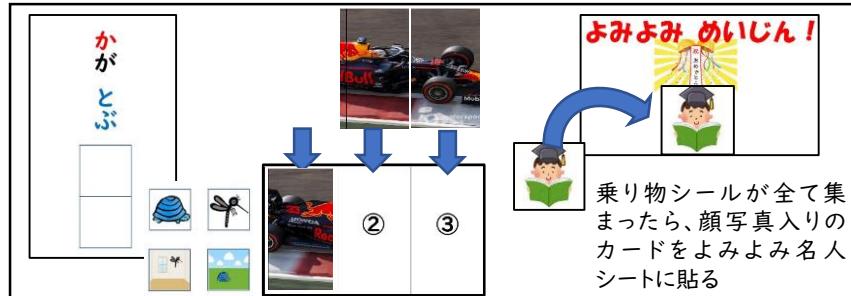
#### ○物語やストーリーを活用

例えば、短い文を作成し、キャラクターの動作を主語と述語で表現する。物語の中で、キャラクターの行動や出来事を通じて、主語と述語の関係を具体的に説明する。

## 【教材と仕組み】

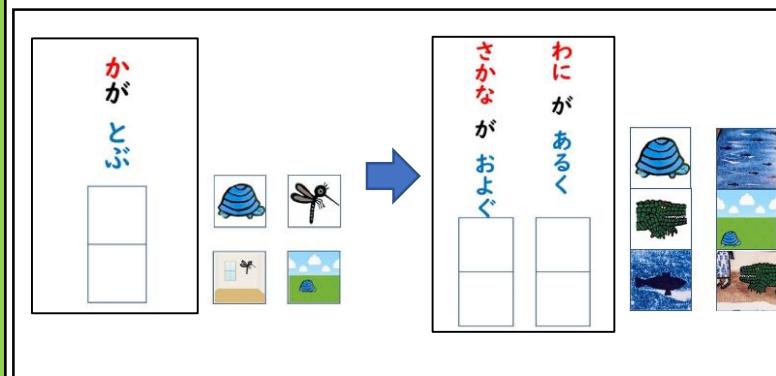
『よみよみ名人になろう』

ひらがなで書かれた文を読んで、その内容に合った主語と述語のイラストを選び、組み合わせることができたら好きなもの分割シールが手に入り、シールを全て集めるとよみよみ名人になれる仕組み。



観点	評価
知・技	「かがとぶ」「かばがねる」「かめがあるく」などの単文を読んで、複数のイラストの中から主語を表すイラストと述語を表すイラストを選び、単文の内容に合うようにイラストを正しく組み合わせることができた
思・判・表	「わにがあるく」「さかながおよぐ」の2つの文を読んで、それぞれの内容に合うようにイラストを組み合わせることができた
主体的な姿	主語と述語のイラストを組み合わせる課題に繰り返し、正しく取り組む姿が見られた

## ポイント 文が表す内容を視覚的に理解しやすくするための学習活動



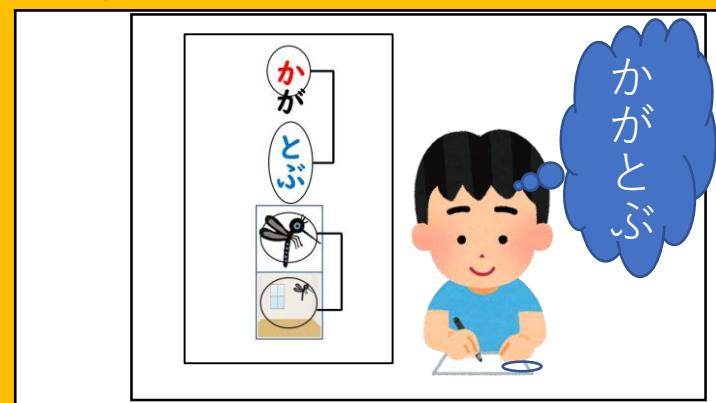
**【段階的な学習】**

まずは一文から始めて、主語と述語に該当するイラストを選ぶ活動を行った。

**【文の意味の理解】**

文が表す内容を理解できるようにイラストを組み合わせる活動に取り組んだ。

## ポイント 主語と述語の関係を理解するための働きかけ



**【主語と述語の関係を視覚的に示す】**

正しいイラストを組み合わせたタイミングで主語と述語それぞれを○で囲み、線でつなげて示した。

すると、自分から○で囲み、「かがとぶ」などを言いながら、線でつなげることができるようになった。

Copyright © All Rights Reserved. 2023. 青柳 俊